

60代女性

●主訴

頸から背中にかけての痛み、胸から腕の凝り、顎関節痛

数年前から頸から背中にかけて常時凝りがあったが、7~8ヶ月前から凝りと痛みが酷くなった。整形外科を受診し頸椎症性神経根症及び胸郭出口症候群との診断。痛み止めを服用したが薬が合わずに止めてしまった。整体やマッサージ、鍼灸治療を多数試したが、もみ返しなどでいつも治療後に具合が悪くなっていた。食いしぼりも酷く、顎の痛みで夜もよく眠れず鎮痛剤を服用することもある。常時続く痛みと不眠で鬱状態になった。

既往歴；橋本病の診断を受けたが経過観察中。

●症状所見

後頭部や頸、背中が凝って重い感じがする。胸(鎖骨下)の辺りは苦しさを感ずる。また顎から側頸部にかけて痛み・凝りを感じる。背部の触診では、全体に緊張があり、下腹部と足先が冷えている。

常に痛みや苦しさを感ずて睡眠もあまり取れなくなり、更に気分が沈んでくる。

●治療の内容と経過

1診；手足と背部のツボに接触鍼(皮膚上に鍼を貼り付ける方法)と、頭頂部から刺絡(滞った瘀血を少量とる方法)を行った。また足部のツボに施灸し、頸～肩甲骨周辺には刺鍼した。

2診；1週間後に来院。

初回治療後2日程は倦怠感などがあり調子が良くなかったが、以降は急に身体全体が軽く楽になった。

1診同様、手足と背部のツボに接触鍼を行った。また、腕のツボに置き鍼と耳には王不留行子を貼付した。肩周辺局所には刺鍼したが、刺入深度は浅くして刺激の軽減を図った。

3診；前回治療後は、初診後に感じた倦怠感はなかった。顎・頸～肩は凝っているが服薬することはなかった。鬱状態も改善傾向。

2診同様、手足・背部のツボに接触鍼と肩甲骨周辺には刺鍼した。

5診；前回の治療翌日は少し顎にこり感を感じる程度。2~3日後からは食いしぼりが強かったせいだか頸～前胸部、肩甲骨周辺の痛みがある。

治療は前回までと同様に手足・背部のツボに接触鍼と肩甲骨周辺には刺鍼した。また、セルフケアとして簡易梅花鍼(爪楊枝を束ねたもの)を作成して頂き、時々ツボを刺激するよう指

導した。7診までは週1回の来院。

8診；前回治療から10日後に来院。治療後3~4日は痛みや凝りをほぼ感じずに過ごせた。2~3日前から顎から頸の凝りが気になる。以前程の気分の落ち込みや不安感などは軽減している様子。治療内容は同様。

10診；約1ヶ月後に来院。顎や頸、背中の痛み・凝りや時に火照り感、喉の詰まりなどを感じることもあるが2日程で治まる。以前程の全身の強ばり感はなく、夕方にはウォーキングが出来るようになった。

12診；前回治療から3週後に来院。暫く調子が良かった。ここ数日はPC作業が多く頸肩凝りが強いが、以前のような夜も眠れない程の痛みではない。

●まとめ

初回来院時にお話を伺うと、頸椎症性神経根症による強い痛みがあり、痛みの軽減のため処方された鎮痛剤が身体に合わず、服用を止めたとのことでした。整体やマッサージ、鍼灸治療もいくつか試したものの、もみ返しや治療後の倦怠感などが辛く、長らく続く痛みと苦痛により不眠と鬱状態に陥ったようでした。

東洋医学的な観点では、痛みや苦痛により肝鬱気滯、時に肝陽上亢と瘀血を感じさせる状態でした。

そこで全身の緊張緩和に主眼をおき、過去の鍼灸・マッサージ治療の様子から鍼の刺激量に留意しながら各部位の筋緊張を和らげ、気を鎮めるように様々な経穴を用いて治療にあたりました。また、ご自宅でも出来るようセルフケアの指導も行いました。治療を重ねる中で、少しずつ筋緊張と痛み・苦痛が軽減し、精神的にも安定してきたようです。

初診から9診までは一週間に1回治療を行いましたが、以後はご本人の都合に合わせて2~4週に1回ほどのペースで継続治療しています。今後も精神面での安定と、顎関節・頸・背中の筋緊張緩和と痛みのさらなる軽減を目的に治療を継続していく予定です。